

CRAFTED IN THE NORTH

北の技から

監獄からのたより

VOL. 06

旭川刑務所

2026 September

PR BOOKLET



POINT

受注製品のほか、オリジナル製品も製作し、矯正展などで販売しています。



旭川刑務所

家具のまちで培われる ものづくりの技術

旭川刑務所では、長期刑受刑者を収容している特性を生かし、長期間にわたる作業に継続して取り組める環境を備えています。そのため、高度な加工技術と確かな技能が培われており、充実した設備のもと、多様なご要望に対応した製品づくりを行っています。

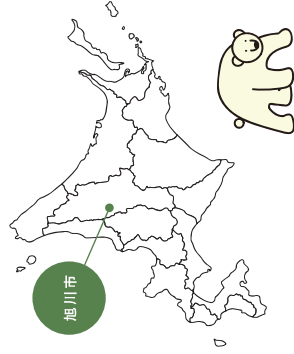
また、木工家具の産地として全国的に知られる旭川市に所在することから、木工作業では地域産業とのつながりを生かし、地元木工業者から受注した各種家具部材の製作を行っています。金属作業では、培った溶接加工技術を生かし、ダストボックスやパーペキューコンロなど、実用性と品質を兼ね備えた製品を製作しています。



“旭川市”ってどんなところ？

旭川市は北海道のほぼ中央に位置し、大雪山連峰を望む雄大な自然と豊かな森林資源に恵まれたまちです。古くから木材産業が盛んで、現在では全国有数の家具・木工製品の産地として広く知られています。旭川家具に代表される木工製品は、職人の高度な技術と木材の特性を生かした丁寧なものづくりによって生み出され、その品質の高さから国内外で高い評価を受けています。

また、地域に根差した木工文化は、人々の暮らしや産業を支える重要な役割を果たしています。自然の恵みと伝統技術が調和する旭川市は、木の温もりとものづくりの魅力にあふれた地域です。



旭川ラーメン



旭山動物園



旭橋



神居古潭



HISTORY

大正5年 旭川地方裁判所の開庁に伴い、「札幌高等旭川分監」が旭川市中心部に設置される。

大正11年 「旭川刑務所」に改称。大正13年以降、札幌刑務所旭川附務支所」として札幌刑務所の管轄となる。

昭和22年 「旭川刑務所」に再び改称となる。

昭和23年 西神楽農場を開設。

昭和43年 現在地へ移転し、長期受刑者の収容を開始。

平成28年 現在の施設へ改築される。



／ 拘禁刑下で進化する

旭川刑務所の取組

01 動機付け



「一人ひとりの目標を
一緒に追っけます。」

これまでは懲役刑の目的として刑務作業を行っていたところ、拘禁刑下では、受刑者の改善更生、出後の社会生活に適応する能力を身に付けるための手段としての刑務作業に位置づけが変わりました。

作業専門官や刑務官等による個別面談やグループワークを通して、受刑者が日々どのような刑務作業に取り組んでいるのか、個人別の目標を立てさせて実施しています。作業を受刑者の改善更生に結びつけるためには、前向きに作業に取り組む姿勢が必要不可欠です。



02 コミュニケーション能力等向上作業

コミュニケーション能力向上作業は、社会復帰後に必要な対人関係能力や協調性を身に付けることを目的として実施しています。参加者は、業務改善に向けた話し合いや新商品の開発をテーマとしたグループワーク等の共同作業を通じて、自分の考えを相手に分かりやすく伝える方法や、相手の意見に耳を傾ける姿勢を学びます。

また、挨拶や報告・連絡・相談といった社会生活や職場で求められる基本的なコミュニケーションについても実践的に習得します。こうした取組を通じて他者を尊重する心や円滑な人間関係を築く力を養い、地域社会の一員として自立した生活を送るための基礎づくりを進めています。

皆さまの声が更生につながります

受刑者が作業に取り組むモチベーション向上に向けた取組の一つに、実際に作業製品を購入していただいたお客様の声を受刑者に届ける取組を実施しています。実際にお客様の声を聞いた受刑者は、その後の作業で消費者のことを意識した取組姿勢に変化しており、皆様の声が改善更生につながります。



地域に息づく技を、日々の作業に

旭川刑務所のしごと



1 木工

Woodworking

木工場は、家具の産地である旭川に位置していることから、旭川家具メーカーや近郊の建材メーカー、クラフト作家などから依頼を受け、家具類の部材加工をベースとした受注製品の製作を主として生産を行っています。また、6月から7月頃には、メロン箱やスイガ箱などの農産物用木箱の製作依頼も多く受注しています。

さらに、旭川が木材流通の拠点でもあることから、流通ネットワークを通じて関東地方や中国地方などの道外からの注文にも対応し、生産を行っています。生産体制については、受注量が多い時期には受注品を優先して製作し、受注量が少ない時期には見越製品を生産するなど、生産計画を柔軟に調整しながら運営しています。



天板と中板の色を合わせた
こだわりの一品



大根、なす、プチトマトなど、さまざまな野菜を収穫



2 農業

Agriculture

西神楽農場は、特別コース処遇「農業ビジネスコース」という取り組みの一環を担っています。これは、旭川、帯広、網走刑務所の3施設が合同で取り組んでいるもので、全国の受刑者の中から、釈放後に農業をしたいと希望する人を選抜し、帯広刑務所で農業の基礎知識を学んだあと、旭川、網走、帯広のいずれかで農作業を実践的に体験し、その後、農業法人などの就職を目指すというものです。敷地面積は、296ha(東京ドーム63個分の広さ)であり、受刑者は泊まり込みで作業を実施しています。

COLUMN

起源は、戦後、旧陸軍の演習地を払い下げた少年保護財団付属自治農園から土地や建物を借用し、泊まり込み農場として発足したことにあります。

昭和23年から25年までの間には本州から「北海道名産作業班」を受け入れ、戦後の河川改修や道路・土地の改良工事を行った歴史もあります。名産作業班の受刑者は、緊要処遇第1級に編入され、作業費与金は特別の基準で支給されました。

また、作業日数2日を刑期の3日(顕著な功労があれば4日)に換算するなどの特典がありました。名産作業班の受刑者たちは、夏場の4か月間、毎朝トラックに乗り、和寒・東川・美瑛・宗谷の現場で作業を行っていたという記録が残っています。





4 洋裁

Sewing

洋裁工場では、指定自給製品である半袖丸首シャツ（肌膚）の製造を行っています。この製品は全国の矯正施設で使用されるものであり、その生産を旭川刑務所が担っています。洋裁作業は木工や金属加工と比べると危険が少ない一方で、高い精度と集中力が求められる業種です。裁断から縫製、検品まで、それぞれで品質管理を徹底し、着用する人に安心して使用してもらえぬ製品づくりに取り組んでいます。また、「自分たちが使うものを自分たちで作る」という考えのもと、作業を通じてのものづくりの意義や働くことの責任を学ぶ場としても重要な役割を果たしています。



3 金属

Metalworking

金属工場では、ゴミ収集用ダストボックスをはじめ、契約企業からの受注製品やBBQコンロ、BBQ用焼網などを製作しています。就業者の多くは半自動溶接機を使用した作業に従事し、シャーリングや旋盤、フライス盤などの加工機械を活用しながら、多様な受注製品や見越製品を製作しています。工場は大型設備が並び広い空間を想像されがちですが、実際は天井が低く、限られたスペースに作業台や加工機械を効率的に配置した、全国的にも珍しいコンパクトな工場です。また、日本最北の積雪地域に位置するため、冬季にはフォークリフトにタイヤチェーンを装着して製品の搬入・搬出を行うなど、地域の環境に応じた安全な作業体制を整えています。

INTERVIEW

作業専門官の声

01

木工担当



木と向き合い、
使う人と向き合う。

「ものづくりを生業にしたい」という思いを胸に職人として一カーへ入社し、工場での見習いや下働きから職人としての第一歩を踏み出しました。現場で技術や知識を磨く一方、縫製や設計にも携わり、ものづくりに関する幅広い経験を積んできました。その後は刑務所作業における木工業務に従事し、木材と向き合い続けて35年になります。当所で製作している製品は、「こんなものが欲しい」というお客様の声から生み出されたものです。良いデザインとは、「自分が作りたいものではなく、相手が必要としているものを形にすること」と言われます。そのため、製品には使う人にとってもみ出そうとする思いややさしさ、不便を減らし快適さを生みながら、日々の指導に当たっています。

02

農業担当



農業が育む、
働く力。

旭川刑務所の農業作業では、受刑者が土に触れ、作物を育てる経験を通じて、勤労意欲や責任感を養うことを目指しています。農業は天候に左右されることで、努力が成果につながる喜びを実感できます。受刑者の中には、当初は指示を待ったばかりの者が、次第に自ら考えて行動し、仲間と協力して作業に取り組むようになる姿も見られます。その成長を支えることが、私たち作業専門官の大きなやりがいです。農業で培った忍耐力や協調性、働く姿勢が社会復帰後の生活に生かされることを願いながら、日々指導に取り組んでいるのです。作物とともに人の成長を見守ることが、この仕事の魅力です。

03

金属担当



ものづくりを通して、
技術と責任感を育む。

金属加工・半自動溶接の現場は「きつい・汚い・危険・臭い」の4Kと言われることがあります。刑務作業として行っている金属工場も民間と同様です。作業専門官は、作業者同士が連携を図りながら安全を最優先に日々の作業に取り組めるよう工場運営と技術指導を行うとともに、刑務所という特有の環境下においても、民間企業に劣らない品質の製品を製作できるように指導・監督に努めています。企画立案から製作、納品に至るまでの一連の業務に携わる専門職です。

04

洋裁担当



一針一針に、
技術を込める。

洋裁作業と聞くと、ミシンを使う比較的簡単な仕事をイメージされるかもしれませんが、しかし実際には、生地、地の動きを見極める感覚や縫製時の力加減、カーブをきれいに仕上げる技術など、経験に裏打ちされた高度な技能が求められます。特に柔らかな生地は固定が難しく、わずかなズレが製品の品質に影響するため、一つ一つの工程に細心の注意を払っています。また、作業指導では相手の考え方や個性を理解することをお大切にしております。まずは話をよく聞くことから信頼関係を築いていきます。ものづくりを通して技術だけでなく責任感や達成感を育むことができ、やりがいのある仕事です。



PRODUCTS

－ 刑務所作業製品の紹介 －

刑務作業で作られた製品は、「CAPIC」ブランドとして一般消費者に提供されています。

詳しくはこちら



書類ケース3段

狂いの少ない合板を主体に使用しながら、合板であることを感じさせない美しい仕上がりを実現した書類ケースです。パーツの縁には無垢材を丁寧に貼り込み、表面には天然木の突板を施すことで、木の温もりと上質な風合いを兼ね備えています。



小箱シリーズ

この小物入れ箱は、建材メーカーなどから出る木材の端材を活用して製作しています。不揃いで加工が難しい端材も、一つひとつ丁寧に仕上げています。さらに、通常は欠点とされる節やアテも生かし、木材本来の個性や自然が生み出す豊かな表情を楽しめるデザインも混在した製品となっています。



木製クリップボード2型

書類ケースと同様に、合板の断面が見えないよう縁周りに無垢材を貼り、その上から天然木突板を接着して製作しています。ランダムに切り出される突板は、少しでも曲がりがあると製品として使用できないため、高い精度での裁断と慎重な取り扱いが求められます。



小物台

本品は小箱シリーズ同様、端材を有効活用しながら専用の型や治具を製作し、工夫を重ねて仕上げた逸品です。掘り込み加工は一般的なNCルーターに頼らず、ハンドルーター用の治具を自作するなど、クラフト作家のような手仕事の技術を活かして製作しています。



サウナハット巾着

性別を問わないデザインで、顔を覆えるほか、長い髪も帽子の中に入める設計です。お風呂道具や着替えを収納できる巾着にも変形し、持ち運びにも便利です。タオル生地を使用しているため家庭で洗濯でき、汗を吸収するだけでなく、体を洗うこともできます。



上記製品に関するお問い合わせ

☎ 0166-57-2637 (作業直通)

旭川刑務所

北海道旭川市東鷹栖3線20-620



北の技から～監獄からのたより～VOL.06

【取材先】旭川刑務所

【企画・編集】北海道矯正管区成人矯正部成人矯正第二課

【発行】北海道矯正管区

〒007-0801 北海道札幌市東区東苗穂1条2丁目5-5 TEL:011-783-3911



刑務作業の
ご案内



作業専門官の
採用情報



旭川刑務所に
ついて